

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	中央区
学 校 名	南小学校
学校長名	石井 宏寧

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立南小学校では、第6学年 34名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、どの教科も、全国平均正答率・大阪市平均正答率に達していない。全体的に正答率は、50%を下回っている。どの領域も全国・大阪市と比較すると10~20ポイント下回っている。平均無解答率は、全国・大阪市と比較すると国語では2倍、算数では3倍、理科では4倍に達しており、問題を読み解くことも困難な状況であり、大変深刻な状況になっている。児童質問紙では、学習に対してのアンケートは、大きく差がある項目は見当たらない。しかし、生活習慣に関するアンケートは、大きく下回る結果になっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕全国平均正答率・大阪市平均正答率に達していない。「A話すこと・聞くこと」に関しては、10ポイント減と正答率の差が少なかった。しかし、「B書くこと」に関しては、24ポイント以上の差があった。書くことに関して、大きな課題がある。

〔算数〕全国平均正答率・大阪市平均正答率に達していない。「C変化と関係」に関しては、6ポイント減と差が少なかった。しかし、「B図形」に関しては、20ポイント以上の差があった。図形に関して、大きな課題がある。

〔理科〕全国平均正答率・大阪市平均正答率に達していない。「エネルギー」を柱とする領域は、9ポイント減と差が少なかった。しかし、そのほかの領域では、20ポイント以上の差があった。

すべての教科に関して、学力の2極化も見受けられる。また、平均正答率が50%を下回ることから、ほとんどの児童が学力に大きな課題があることがわかる。平均無解答率は、全国・大阪市と比較すると、2~4倍になっている。

質問紙調査より

学習に対してのアンケートでは、全国・大阪市と比較しても、大きく差がある項目はみられない。しかし、生活習慣に関するアンケートでは、全国・大阪市と比較すると、否定的な意見の割合が大きい。生活習慣の改善が、学力の向上に関係しているものと考えられる。また、本校は、外国につながる児童が多く在籍している。個別に丁寧な支援のもと、アンケートを実施しているが、日本語で書かれているアンケートの問われている内容で、意味を十分正確に理解して答えることができない可能性も考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

本校の実態を見てみると、編入等で、日本語を十分に習得していない児童が多く在籍していることが、結果に大きく影響していると考えられる。日本語教室での学習を終えた児童に対して、JSL等の措置を講じ、日本語指導を継続して実施していく体制を構築していく必要がある。また、通常教室での学習では、学習言語の習得に向けての視覚的教材の活用や、単元ごとの学習言語を、より明確に焦点化して指導していくことが必要になる。

【 全体の概要 】

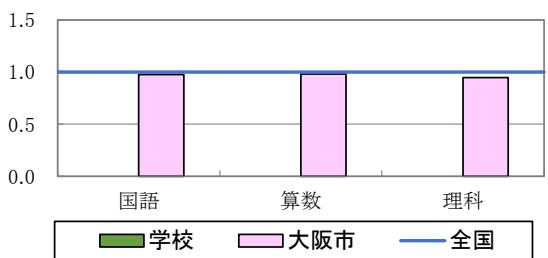
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	—	—	—
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

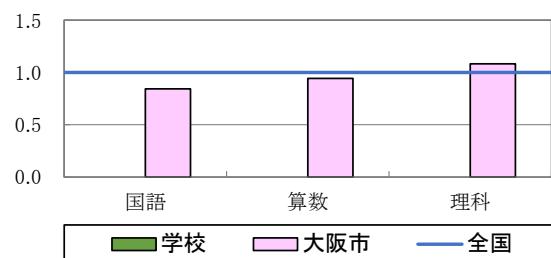
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	—	—	—
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



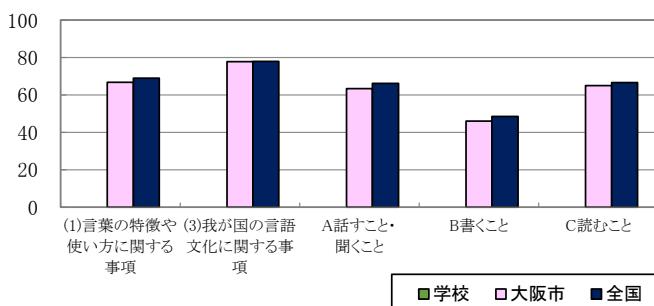
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	—	66.7	69.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	0	—	—	—
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	—	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	—	63.4	66.2
B 書くこと	2	—	46.0	48.5
C 読むこと	4	—	65.0	66.6

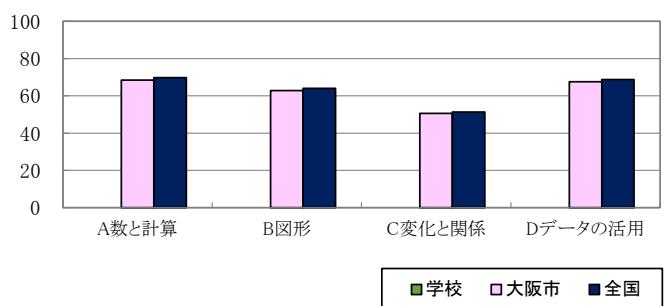
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	—	68.4	69.8
B 図形	4	—	62.8	64.0
C 測定	0	—	—	—
C 変化と関係	4	—	50.5	51.3
D データの活用	3	—	67.5	68.7

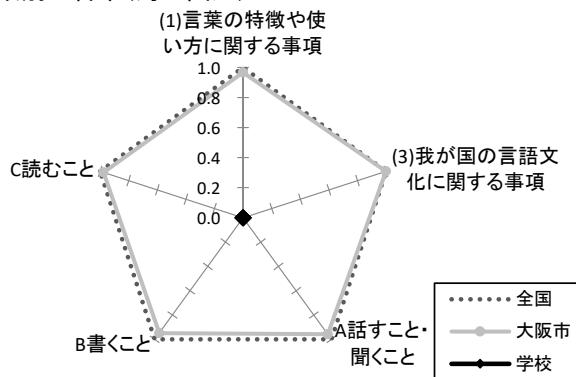
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



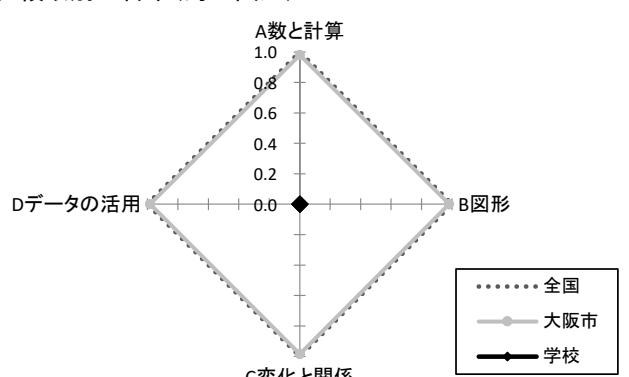
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)

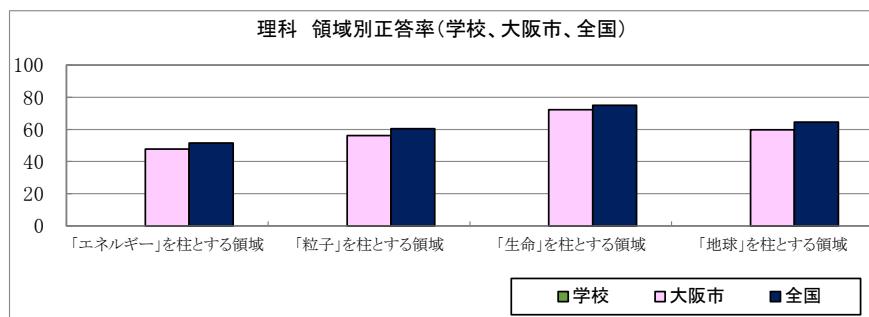


算数 領域別正答率(対全国比)

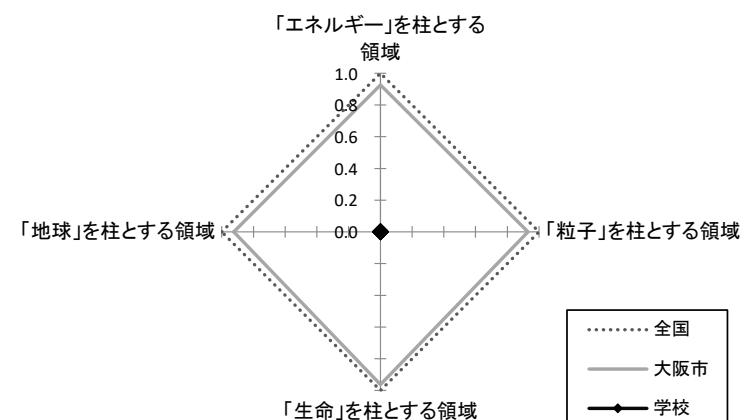


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	—	47.8 51.6
	「粒子」を 柱とする領域	5	—	56.2 60.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	5	—	72.2 75.0
	「地球」を 柱とする領域	5	—	59.7 64.6



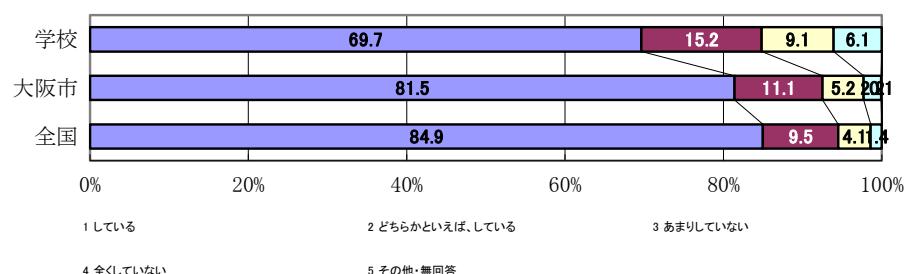
理科 領域別正答率(対全国比)



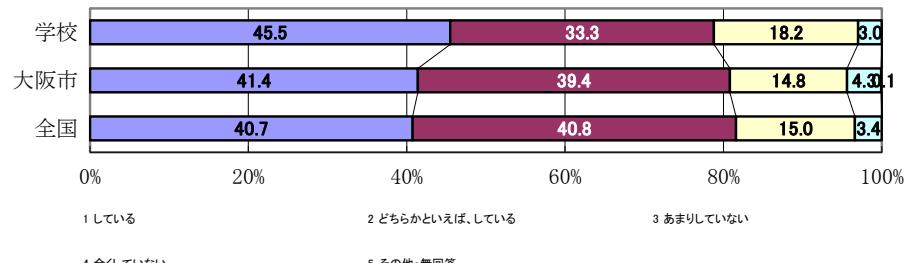
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

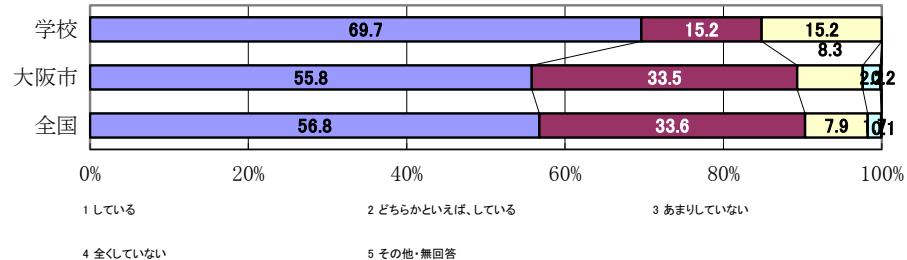
質問番号
質問事項
1
朝食を毎日食べていますか



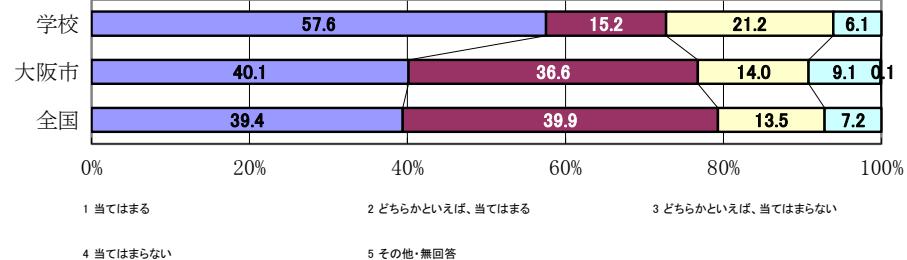
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



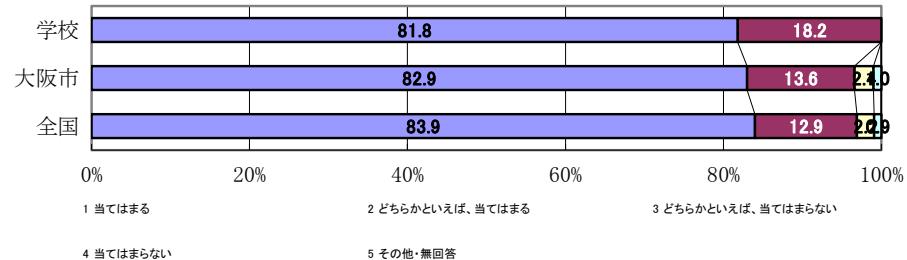
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



7
自分には、よいところがあると思いますか



13
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



学校質問紙より

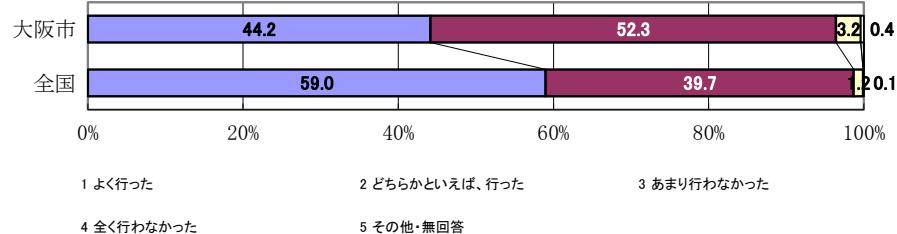
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

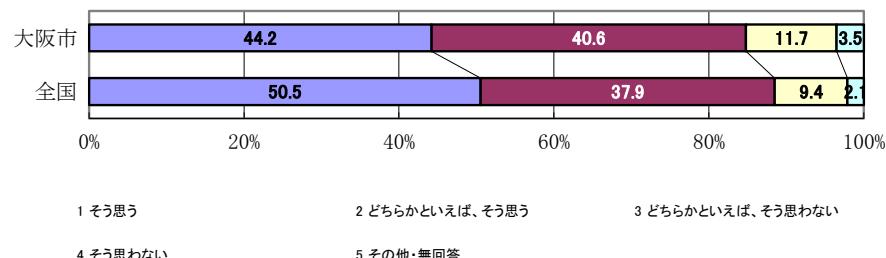
学校 「よく行った」を選択



11

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか

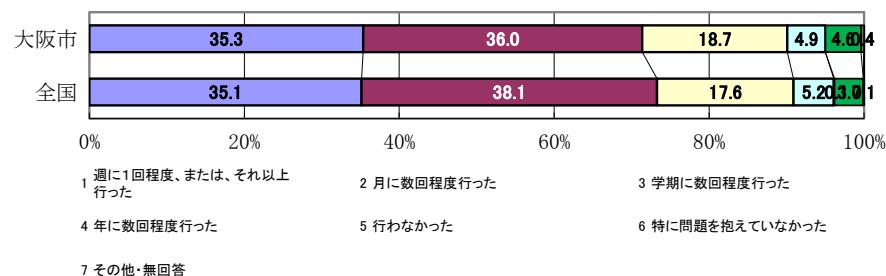
学校 「そう思う」を選択



12

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

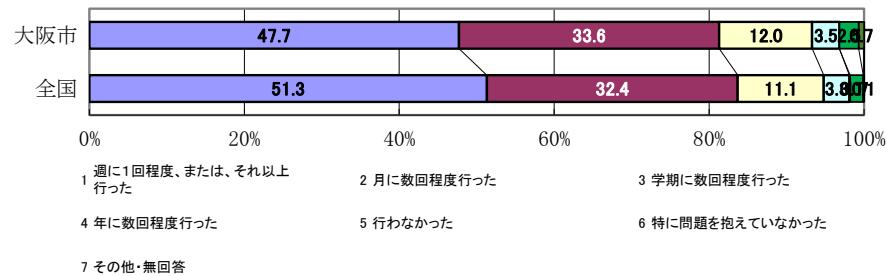
学校 「月に数回程度行った」を選択



13

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択



14

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか

学校 「どちらかといえば、取り組んでいる」を選択

